

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式  
(令和7年度)

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤 教員	専任教員一人 あたりの在籍 学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士 又は作業療法士 数	助手			
保健医療学部理学療法学科	14人	2人	1人	2人	19人	6人	15人	0人	37人	10.1	
計	14人	2人	1人	2人	19人	6人	15人	0人	37人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門 基礎・専門）	指定規則	相当授業	担当 コマ	担当教員	
	教育内容	科目名	数	氏名	職名 (専任・兼任)
共通 教養 科目	教養 基礎	健大で学ぶ Well-being	8	松尾仁司、出雲春明、高梨美穂、松岡功、須藤豊、高橋恵美利、田中祐司、吉田久美子、倉林しのぶ、北原恵美、中川和昌、栗原幸正、大政謙次、吉積毅、石神靖弘、松岡寛樹、谷頭子、橋田庸一	専任 兼任
		基礎教養ゼミ	15	解良武士他、学科教員	専任
		日本語表現法	15	古澤良文	兼任
		日本国憲法	15	新田浩司	兼任
		法学	15	新田浩司	兼任
		経済学	15	町田修三	兼任
		社会学	15	安達正嗣	兼任
		生涯健康論	15	渡邊秀臣、五十嵐康、蒲章則	専任、兼任
		生涯学習概論	15	平林茂、三村国宏	兼任
		生命と環境の科学	15	奥浩之	兼任
		国際関係論	15	片桐庸夫	兼任
		体育理論	8	入澤孝一	専任
		体育実技	15	入澤孝一、河野さゆり	専任、兼任
		キャリア形成論	15	小泉英明	兼任
	人間 理解	哲学	15	大石桂子	兼任
		倫理学	15	大石桂子	兼任
		心理学	15	内田祥子	兼任
		文学と人間	15	菅野陽太郎	兼任
		芸術論	15	石原綱成、志尾睦子	兼任、兼任
		ボランティア・市民活動論	15	一柳大輔	兼任
		人権論	15	金井洋行	兼任
		人間関係論	15	富田純喜	兼任
		ジェンダー論	15	山田秀頌	兼任
共生の倫理		15	大石桂子	兼任	
チーム医療アプローチ論	8	大川喜代美、加藤大輔、竹内真理、梅原里実、渡邊秀臣、篠原智行、小竹利夫、高橋雄太	専任、兼任		

リテラシー	国際保健医療論	15	李孟蓉、町田修三	兼任
	Introduction to healthcare sciences	15	町田修三、小澤澗司、東福寺幾夫、松尾仁司、ターン・クリストファー、應本真、今井純、大石時子、富田洋介	専任、兼任
	囲碁の世界	15	三谷哲也	兼任
	英語 I	15	Aクラス：織原義明 Bクラス：下田尾誠	兼任
	英語 II	15	Aクラス：カルステン・アンジェラ Bクラス：荒井ルイーズ	兼任
	英語 III	15	Aクラス：ステイシー・クローズ Bクラス：姉崎達夫	兼任
	英語 IV	15	Aクラス：出雲春明 Bクラス：織原義明	兼任、兼任
	Integrated English I	15	ターン・クリストファー	兼任
	Integrated English II	15	高橋栄作	兼任
	ドイツ語	15	大石桂子	兼任
	フランス語	15	松島洋子	兼任
	ポルトガル語	15	カルステン・アンジェラ	兼任
	中国語	15	渡邊賢	兼任
	ハングル語	15	丁美貞	兼任
	情報リテラシー I	7	齊田高介、木幡直樹	専任、兼任
情報リテラシー II	7	齊田高介、木幡直樹	専任、兼任	
情報リテラシー III	7	齊田高介、木幡直樹	専任、兼任	
情報リテラシー IV	7	齊田高介、木幡直樹	専任、兼任	
情報リテラシー V	7	齊田高介、木幡直樹	専任、兼任	
情報リテラシー VI	7	齊田高介、木幡直樹	専任、兼任	
専門教養科目	論理学	8	米田和美	兼任
	人間発達論	15	角野善司	兼任
	人間行動学	15	上原徹、服部卓	兼任、兼任
	化学	15	信田智哉	兼任
	統計学	8	福島博	兼任
	生物学	15	今井純、坂井隆浩	兼任
	生活科学概論	8	大塚恵美子	兼任
	教育基礎論（教職科目）	15	深見匡	兼任
	教育心理学（教職科目）	15	宮内洋	兼任

理学療法基礎専門科目群	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	30	三井真一	兼任
		解剖学Ⅱ	15	大野洋一、高橋裕子	専任
		解剖学実習	24	大野洋一、高橋裕子	専任
		生理学	15	大野洋一、富田洋介	専任
		生理学実習	24	大野洋一、富田洋介	専任
		運動学	30	樋口大輔、正木光裕	専任
		運動学実習	24	正木光裕、樋口大輔	専任
		生化学	8	石川良樹	兼任
		栄養学Ⅰ	8	河原田律子、中村彰男、町田大輔	兼担、兼任
		栄養学Ⅱ	8	河原田律子、宮崎純一	兼担、兼任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	15	半田正	兼任
		薬理学	15	吉田一貴	兼担
		公衆衛生学	15	小出省司	兼任
		臨床医学Ⅰ（内科学・外科学）	30	田中聡一	専任
		臨床医学Ⅱ（内科学・外科学）	15	田中聡一	専任
		臨床医学Ⅲ（老年医学）	15	田中聡一	専任
		臨床医学Ⅳ（小児医学）	15	鈴木隆	兼任
		臨床医学Ⅴ（女性医学）	15	竹中恒久	兼任
		臨床医学Ⅵ（精神医学）	15	上原徹	兼担
		言語障害治療学	8	中山翼	兼任
		救急処置	15	田中聡一、中川和昌	専任
		整形外科学	15	飯塚陽一、中川和昌	専任
		神経内科学	15	田中聡一	専任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	吉田剛、竹内伸行	専任
		リハビリテーション統計学	8	竹内伸行、富田洋介	専任
		臨床心理学	15	千葉千恵美	兼担
		保健医療福祉行政論	15	小出省司	兼任
		社会調査特論	8	安達正嗣	兼担
		チーム医療アプローチ演習	8	渡邊秀臣、小池洋子、篠原智行、高橋雄太、竹内真理、加藤大輔、木村憲洋、小竹利夫	専任、兼担
		社会福祉概論	15	石坂公俊	兼担

理学療法専門科目群	基礎理学療法学	理学療法概論	15	解良武士	専任
		理学療法キャリア論	8	竹内伸行、吉田剛、篠原智行、中川和昌、千木良佑介、大野洋一、富田洋介、田中繁弥	専任
		理学療法基礎学	15	吉田剛、斎田高介	専任
		理学療法基礎学実習	24	吉田剛、斎田高介	専任
		理学療法セミナー 1	15	田中繁弥、千木良佑介、理学療法学科教員	専任
		理学療法セミナー 2	15	樋口大輔、田中繁弥	専任
		理学療法セミナー 3	15	大野洋一、樋口大輔	専任
		理学療法セミナー 4	15	千木良佑介、大野洋一、富田洋介、高橋裕子	専任
		理学療法研究法	15	竹内伸行、正木光裕、田中繁弥、斎田高介	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	8	竹内伸行	専任
		リスクマネジメント	8	竹内伸行	専任
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	15	樋口大輔、高橋裕子	専任
		理学療法評価学Ⅱ	15	中川和昌、篠原智行、高橋裕子	専任
		理学療法評価学実習Ⅰ	24	樋口大輔、高橋裕子	専任
		理学療法評価学実習Ⅱ	24	中川和昌、篠原智行、高橋裕子	専任
		画像評価学	8	解良武士、高橋裕子	専任
		臨床運動学	15	正木光裕、富田洋介	専任
		臨床運動学実習	24	富田洋介、正木光裕、高橋裕子	専任
	理学療法治療学	運動器系理学療法学	15	樋口大輔	専任
		運動器系理学療法学実習	24	中川和昌	専任
		神経系理学療法学	15	吉田剛、富田洋介	専任
		神経系理学療法学実習	24	吉田剛、富田洋介	専任
		内部障害系理学療法学	15	解良武士	専任
		内部障害系理学療法学実習	24	千木良佑介	専任
		日常生活活動学	15	篠原智行、田中繁弥	専任
		日常生活活動学実習	24	篠原智行、田中繁弥	専任
		義肢装具学	15	千木良佑介	専任
義肢装具学演習		15	千木良佑介	専任	
物理療法学Ⅰ		15	竹内伸行、斎田高介	専任	
物理療法学Ⅱ		15	竹内伸行、斎田高介	専任	
理学療法症例基盤型演習Ⅰ		15	大野洋一、樋口大輔	専任	

		理学療法症例基盤型演習Ⅱ	15	千木良佑介、大野洋一、富田洋介、高橋裕子	専任
		理学療法技術実習	24	吉田剛、中川和昌	専任
		障害・症候別理学療法学	8	千木良佑介、齊田高介	専任
		発達障害系理学療法学	8	正木光裕、高橋裕子、臼田由美子	専任、兼任
		栄養・嚥下理学療法学	8	吉田剛、富田洋介	専任
		スポーツ理学療法学	8	中川和昌	専任
	地域理学療法学	生活環境支援学	8	篠原智行、田中繁弥	専任
		地域在宅理学療法学	8	解良武士、田中繁弥	専任
		予防理学療法学	15	解良武士、吉田剛、中川和昌、篠原智行	専任
		地域・国際理学療法学	8	中川和昌	専任
		介護予防理学療法学	8	解良武士、篠原智行、田中繁弥	専任
	臨床実習	理学療法早期体験実習	24	理学療法学科教員	専任
		機能・能力評価臨床実習Ⅰ	24	理学療法学科教員	専任
		機能・能力評価臨床実習Ⅱ	96	理学療法学科教員	専任
		地域在宅理学療法臨床実習	24	理学療法学科教員	専任
		理学療法総合臨床実習Ⅰ	144	理学療法学科教員	専任
		理学療法総合臨床実習Ⅱ	168	理学療法学科教員	専任
	卒業研究	卒業研究	60	理学療法学科教員	専任

【自己評価 2-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2

	シラバスが作成されていない。	1
--	----------------	---

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法の見学 (理学療法早期体験実習)	1年後期	理学療法概論	1年前期
		リハビリテーション概論	1年前期
		チーム医療アプローチ論	1年前期
		理学療法セミナー1	1年後期
理学療法検査の実践 (機能・能力評価臨床実習Ⅰ・Ⅱ)	2年後期 3年後期	理学療法評価学Ⅰ	2年前期
		理学療法評価学Ⅱ	2年後期
		理学療法評価学実習Ⅰ	2年前期
		理学療法評価学実習Ⅱ	2年後期
		臨床運動学	3年前期
		臨床運動学実習	3年後期
		理学療法症例基盤型演習Ⅰ	3年後期
		理学療法セミナー2	2年後期
理学療法の評価・治療の実践 および 理学療法業務の補助 (理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ)	4年後期	チーム医療アプローチ演習	4年後期
		理学療法基礎学	2年前期
		理学療法基礎学実習	2年後期
		運動器系理学療法学	2年後期

		運動器系理学療法学実習	3年前期
		神経系理学療法学	2年後期
		神経系理学療法学実習	3年前期
		内部障害系理学療法学	2年後期
		内部障害系理学療法学実習	3年前期
		日常生活活動学	2年前期
		日常生活活動学実習	2年後期
		義肢装具学	2年後期
		義肢装具学演習	3年前期
		物理療法学Ⅰ	2年前期
		物理療法学Ⅱ	2年後期
		理学療法症例基盤型演習Ⅱ	4年前期
		障害・症候別理学療法学	3年前期
		理学療法技術実習	3年後期
		理学療法セミナー4	4年前期
通所・訪問リハビリテーション 事業の見学  (地域在宅理学療法臨床実習)	3年後期	生活環境支援学	3年前期
		地域在宅理学療法学	3年後期
		予防理学療法学	3年後期
		介護予防理学療法学	4年前期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定

○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	内部質保証会議（全体会議、基準別 WG および学科別 WG）
委員名（委員長）	渡邊秀臣（副学長）
組織の開催頻度	大学基準協会が定める基準別に不定期開催
組織の取り組み内容	・ LMS を利用した学生による授業評価
	・ 外部評価者、学生教育改善委員、教員による 3 つのポリシー点検会議（年 1 回）
	・ FD 研修会の開催（全学 2 回/年程度、学部 3 回/年程度）
	・ アセスメントチェックの実施
	・ 自己点検評価報告書による教員自己点検
	・ 大学基準協会に準拠した自己点検評価シートによる教育/研究等の点検
自己点検・評価結果の公表	HP で公表（URL: <a href="https://www.takasaki-u.ac.jp/guide/information">https://www.takasaki-u.ac.jp/guide/information</a> ）

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	シラバスチェック第三者チェック
	委員構成等	教務委員会
	改善の仕組みの実際	シラバス作成後、教務委員によるシラバス第三者チェックを行っている。科目区分、科目ナンバリング等の明示、科目に関連した実務経験の有無の記載、学位授与方針との対応に記載されている数値、アクティブラーニング実施方法の記載、実施概要への授業の進め方の記載、学位授与方針を意識した到達目標の明示、成績の評価方法の記載、具体的な予習復習の時間の明示と指示などが記載されているか、シラバスチェック表を用いてチェックを行う。来年度向けに Web でのシラバス入稿システムを導入し、利便性を高める。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

本学では、外部評価および自己点検・評価活動を通じて教育の質保証と継続的改善を図っている。理学療法学科においては、令和 7 年度にリハビリテーション教育評価機構による教育評価認定審査を受審し、教育理念、教員体制、教育課程、臨床実習、学生支援、管理運営および内部質保証の各基準について総合的に審査された結果、「適合」の評価を受けた。教育理念や 3 つのポリシーは明文化されホームページ等で公開されており、各科目にディプロマ・ポリシーポイントを設定することで学習成果を体系的に把握できる教育課程を構築している。また学習支援システム（START）を活用し、履修科目の成績と DP 到達度を可視化するとともに、卒業時にはディプロマサプリメントとして学修成果を提示するなど、学修成果の把握と教育改善に向けた取り組みが評価されている。さらに、多職種連携によるチーム医療演習の設置や、附属クリニックと連携した臨床教育、臨床実習施設に勤務する卒業生を OSCE 評価者として活用するなど、養成教育と臨床教育を連結した教育体制を整備していることも確認された。加えて、令和 6 年度には大学全体の自己点検・評価報告書を作成し、教育研究活動、学生支援、内部質保証体制等について学内での点検・改善を実施している。

これらの外部評価および自己点検の結果を踏まえ、本学では内部質保証会議を中心として基準別および学科別のワーキンググループを設置し、教育活動の継続的な点検を行っている。また、学科長、教務委員会、FD・自己点検委員会、入試委員会等の関係者に加え、外部評価者および学生代表を含めた体制で、毎年 6～7 月に 3 つのポリシー点検会議を開催し、教育課程および教育成果の検証と改善を行っている。

授業レベルでは、LMS を利用した授業アンケートを実施し、学生からの意見・要望に対して教員が回答するとともに次年度の授業改善に活用している。学科レベルでは、各 Semester 終了後に学科教務委員会を開催し、シラバスの点検および教育内容の改善について協議している。さらに教員個人においては、毎年度自己点検評価報告書を作成し、学科長面談等を通じて教育・研究活動の振り返りと改善を行っている。

このように、本学では外部評価と内部評価を組み合わせた多層的な質保証体制を整備し、教育内容、教育方法、教育環境の継続的な改善につなげている。